

海とともに

気仙沼市立鹿折中学校 3年 鈴木 友彩

私の生活のそばにはいつも海がありました。家の目の前には海，造船所で働く両親。幼い頃から私は釣りや海水浴など，海で遊ぶことが大好きでした。

しかし，平成23年3月11日，大好きな海は大きな波で私たちの家を流していきました。小学校1年だった私の記憶は曖昧ですが，工場からの油で汚れた海の色と冷蔵庫が波に漂う奇妙な光景だけは今でも忘れることができません。

あれから7年。町は少しずつ復興が進み，海もきれいな色に戻りつつあります。しかし，全てが元通りというわけにはいきません。私の通学路では現在，防潮堤の建設工事が行われています。防潮堤は災害から町を守ることを目的として作られています。巨大な防潮堤が建設されることによって，これまで見えていた海が見えなくなってしまうことも事実なのです。海が大好きで，海とともに育ってきた私にとっても悲しいことです。ですが，その一方で，安全な町づくりのためには高い防潮堤が有効であるということもまた理解することができます。

気仙沼市は「海と生きる」をテーマとして掲げる町です。そんな町に住む私たち鹿折中学校3年生は，現在，総合的な学習で「町づくり」について学んでいます。私たちは1年生の頃から水産加工団地や災害公営住宅の見学，防災新聞づくりなどを通じて，町づくりへの理解を深めてきました。3年生となった今年は地域の方々との交流会を行い，自分たちがコミュニティーづくりに協力して「人と人をつなぐ」役割を果たしていくこととなります。今はまだ「海と生きる」ということについて，明確な考えを持っていない私ですが，活動を通してふるさとを見つめ直し，「海と生きる」町づくりについて，自分なりの提案をしていけたらと思います。

私たちが大人になる頃，気仙沼の海はどうなっているのでしょうか。十数年後，東日本大震災を知り，語り継ぐことのできる最後の世代である私たちが中心となって，「海と生きる」町づくりを実現できていたらいいなと思います。その時まで，私も自分にできることを考え続けようと思います。

「これまでも，そして，これからもずっと海とともに」……そんな未来を願って。